

# 第1学年2組 道徳学習指導案

指導者 岩井 里美

1 主題名 いのちをたいせつに 3—(1) 生命尊重

2 資料名 ポンタのしっぱい

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

低学年の内容項目3—(1)は「生きることを喜び、生命を大切にする心を持つ」である。生命の大切さに関するものであり、生命あるすべてのものをかけがえのないものとして尊重し、大切にする児童を育てようとする内容項目である。

生命の大切さはどれだけ強調してもしすぎることはない。そして生命を大切にする心情は何にもまして優先されなければならないと考える。児童が健やかに成長していくためには、日常生活の中で、その状況に応じて健康・安全に気をつけ、生命を大切にする態度と判断力につけることが重要である。しかし児童は日々の生活の中で生命の大切さを自覚しないまま過ごしていることが多く、このことが児童の慎重さを欠く行動となって表れている。

そこで、軽率な行動が危険を招くことを理解させ、状況を良く見極め、安全で健康な生活を送ることを通して生命を大切にしようとする態度を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態 (児童29人 事前調査 10月6日)

《アンケート》

○ 仲良しの友達4人で、公園へ行って遊ぶことになりました。あなたが信号を渡ろうとしたとき、青信号が点滅して赤になってしましました。ほかの友達はみんな渡り終えて先に行ってしまったそうです。あなたならどうしますか。

(1) 次に信号が青になるまで待つ。26人

(2) 急いで渡る。1人

(3) 車が来ていないかどうか確かめて渡ってしまう。2人

アンケートを見ると、ほとんどの児童が「次に信号が青になるまで待つ」と答えており、軽はずみな行動を取ることは危険であることを頭の中では理解しているように思われる。しかし実際の生活を見ると、楽しさを優先し、危険な遊びをしてけがをしてしまったり、友達とトラブルを起こしてしまったりという場面がしばしば見られる。また上下校の際にも一列歩行ができなかつたり、急に走り出したりと危険な様子が見られる。児童の周囲には危ないことや注意しなければならないことが数多く存在するが、それに気付かなかったり判断力が甘かつたりして事故にあってしまうのが実態である。

(3) 資料について

嵐の後、流れが速く水量も増えている川に、倒れた木が橋のようにかかっている。その木を通って川の向こう岸に渡れるかどうかポンタと友達が言い争いになる。引くに引けなくなってしまったポンタは、周囲の友達が止めるのも聞かずに危険を承知で渡り始めてしまう。そしてちょうど中央くらいまで来たときに足もとがふらつき、ついに川に落ちて流されてしまう。

児童の日常の中でも友達と言い争いになり、強がったために後に引けなくなってしまったような場面は見られる。危険を冒してまで川を渡らなければならなくなつたいきさつと、ポンタの心情に共感させた上で、ポンタが取った行動が大変危険な結果となったことをおさえ、命の大切さについて深く考えさせたい。

4 本時の指導

本時のポイント	役割演技を取り入れて登場人物に共感させ、自分の思いを発表することができるようとする。
---------	--

(1) ねらい

自分の命の大切さに気付き、生命を大切にしようとする態度を養う。

(2) 準備・資料

場面絵 ワークシート

(3) 本時の見どころ

危険をおかして川を渡るはめになったポンタの心情に、役割演技を行うことで共感させる。軽はずみな行動がポンタにどのような危険な結果をもたらすことになったのかをおさえ、命の大切さについて十分考えさせたい。

そして、ポンタになりきってワークシートのふき出しに気持ちを書かせることで、自分の考えをまとめさせ、思いをはつきりと話せる児童を育てていきたい。

(4) 展開

主な活動と発問	予想される児童の反応	支援と評価
1 無理に何かをして、失敗してしまった経験について話し合う。 ○ 無理をして危ないめにあったことや、けがをしてしまったことはありますか。	・自転車のスピードを出しすぎて転んでしまった。 ・遊具から飛び降りて足をけがしてしまった。	・普段の生活を思い起こさせ、本時のねらいとする価値への方向付けをする。 ・悪いこととして取り上げるのではなく、誰にでも失敗の経験があることをお互いに認められるようにしたい。 ・場面絵を用いて資料をゆっくり読むことで、資料の内容を捉えやすくする。
2 資料「ポンタのしつぽい」を読んで話し合う。  ○ 「本当にわたれるのならわたってみろよ」と言われたときポンタはどう思ったでしょう。  ○ 木の上を渡り始めたとき、ポンタはどう思ったでしょう。  ○ 「あなたの命はたった一つしかないのよ」と言われたとき、ポンタはどんなことを考えたでしょう。	・本当に渡って見せるぞ。 ・きっと大丈夫だから、渡ってしまおう。 ・本当はちょっと怖いな。 ・やめようかな。  ・いいか、見てろよ。 ・絶対大丈夫だ。 ・もう引き返せないよ。 ・途中でやめたらかっこ悪いな。 ・怖いな。やめればよかった。 ・落ちないで、最後まで渡れるかな。 ・こわかった。 ・やっぱり、やめておけばよかった。 ・命は大切だ。 ・もう危ないことはやめよう。 ・お母さん、どうして泣いているの。 ・お母さん、心配かけてごめんなさい。	・役割演技を取り入れることで、ポンタの後に引けなくなった気持ちや、迷っている気持ちに共感させ、ポンタになりきって話をさせたい。  ・ポンタは意地を張ったせいで橋を渡ることになってしまったことに気付かせたい。 ・ワークシートのふき出しにポンタの気持ちを書かせ、自信を持って発表できるようにする。  ・後悔や反省で終わることなく、命の大切さに気付かせ、ねらいとする価値に迫りたい。 ◎命の大切さに気付き、生命を大切にしようとする気持ちを持つことができたか。（ワークシート、発表）
3 児童の作文を読み聞かせ、自分の生活を振り返る。 ○ 作文を聞いて、どんなことを感じましたか。	・ぼくもおじいちゃんが死んじやったとき、悲しかった。 ・大事なペットが死ぬなんて考えられない。 ・死んだら帰ってこないんだ。	・静かに読んで聞かせ、余韻を持たせる。 ・ペットの死に直面した友達の体験を紹介することにより、たった一つの命は戻らないことに気付かせ、生命の大切さにふれさせたい。